

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501503		
法人名	株式会社 東北産業		
事業所名	グループホームよこはま荘		
所在地	〒039-4142 上北郡横浜町字上イタヤノ木438-5		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成29年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四方を海や山に囲まれ、自然豊かな環境に恵まれた場所にあり、施設からは、季節が感じられる花や木々の景色をいつでも見ることができる。施設に面している通りは、地域の方々の散歩コースとなっており、気軽に立ち寄れる場所に位置している。また、地域に根差した施設づくりを念頭に、ボランティアや民生委員の方々とも密に連携し、より過ごしやすい施設となるよう取り組んでいる。入居者には受容、傾聴、支援の基本を忘れることなく、新たに作った理念を心に刻み、安心して住み慣れた地域で生活できるよう、努力していきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、看護師による週1回のバイタルチェック等による見守りと、その記録を医師による月1回の往診につなげ、相互に連携を図りながら、利用者が日常の健康管理や医療面において、不安なく過ごせる環境づくりを行っている。 また、ホール南側の大きな窓はベランダにつながり、そこには白いベンチが置かれ、日向ぼっこができる他、春には横浜町が誇る菜の花畑が目の前に広がり、利用者を楽しませている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を掲げてホールに掲示し、申し送り時や全体会議等の場で振り返り、同じ意識を持って業務に取り組んでいる。	全職員で話し合い、「よ・こ・は・ま」を頭文字にした文章からなる、ホーム独自の新しい理念を作成している。理念はホーム内に掲示している他、職員会議でも確認し、全職員で理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や町のイベント、施設内外の夏祭りに参加したり、気軽に施設に来ていただけるように取り組んでいる。	町内会に加入し、町の行事への参加等を通じて地域住民と交流を図り、ホームへの理解と気軽に立ち寄っていただけるような関係構築に努めている。また、チラシを配布したり、広報に載せる等して、地域住民にホーム行事への参加を働きかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ時、来訪者にはその都度話をしている。また、認知症カフェの実施計画がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を開催し、会議では、利用者様や職員の状況を報告し、意見や要望を聞きながら、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、メンバーには事前に開催案内を郵送し、参加を促している。会議では、ホームの行事や研修、利用者の状況等を報告している他、防災訓練への参加も促している。また、メンバーからは職員の接遇についても意見をいただき、その後のより良いサービスにつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症地域ケア会議に参加し、他事業所とも意見交換ができ、お互いの取り組みについての話し合いができています。また、運営推進会議には役場職員も参加し、意見交換が行われている。	町の担当職員が必ず運営推進会議に出席し、情報提供やアドバイスをいただいている。また、地域包括支援センター主催の認知症地域ケア会議にも参加しており、有意義なものとなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを整備している他、身体拘束の研修に参加し、全体会議の場で周知している。	マニュアルを整備している他、ホーム内外の研修への参加等を通じて、職員は身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。日中、玄関は施錠せず、外出傾向を察知した時は工夫しながら付き添う等、職員は利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、全体会議の場で周知している。今期は、職員のストレスと虐待ということを主に、理解を深める取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を準備し、必要に応じて閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者が家族への対応を行い、入所に関わる事務手続きや説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置したり、面会時には利用状況を報告し、家族には色々な意見を話しやすい雰囲気づくりを心がけ、気兼ねなく意見や要望を話していただき、会議の時に検討して、運営に反映させている。	運営推進会議には家族がメンバーとして参加し、外部に意見を出せる機会が確保されている他、月1回、広報誌「よこはま荘だより」を郵送し、併せて担当職員が利用者の生活状況報告として、個別に暮らしぶりを書いた書面も同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議と全体会議を開催し、職員間で意見交換を行い、その結果を会社の会議で報告している。	職員会議や朝の申し送り等、職員の意見を聞く機会を設けており、必要に応じて、事業主体(会社)の相談役に取り次ぎ、相談等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回(8月・12月)に人事考課を実施し、自己評価や面接等で評価して、賞与に反映している。また、年1回、夜勤者は2回の健康診断を実施し、有休休暇も希望に沿って取れるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加させ、職員が自己啓発やスキルアップできるように取り組んでいる。また、事業所内での研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や町のイベントにお互いの施設から参加し、町民へアンケートを行ったり、行事への協力体制もできている。また、町が主催する勉強会へも積極的に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後は、事前に本人の情報を十分に収集して、全職員に共通して理解してもらい、日々の生活で寄り添いながら、受容、傾聴、支援を心がけて信頼関係を築き、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に当ホームの概要等を家族に理解していただき、その上で家族の要望等を聞くことで、安心してサービスを受けられる体制を整えている。入所後も、必要な情報は電話や手紙を通して、随時報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前から、家族や施設、関係業者、公共機関等を交えて、十分に話し合える場を設けることで、安心してサービスを受けられる体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事はお願いし、できない事はさりげなく補い、本人の自立心とやる気を引き出せるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力や理解がなくては本人の援助も進まないことを伝え、利用者様の訴えが多い時には家族側にも働きかけを行っており、共に本人を支えていく関係を構築している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町のイベント行事への参加、施設内外の行事へ参加をしている。また、遠方からの利用者様は、外出行事の際に馴染みの場所へ出かけられるよう配慮している。	友人、知人等の面会を積極的に受け入れ、ハガキの代筆や携帯電話の使用等のお手伝いをし、関係継続の支援に努めている。町のイベントへの参加は馴染みの人に会える機会となっている他、日々の会話から行きたい場所や思い出の場所等の把握に努め、「海を見たい」、「墓参りに行きたい」等の希望を叶えられるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく利用者様が一緒にホールで過ごせるよう、集団体操を含め、共に過ごせる場や関わりの方を考えながら対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談できるように家族に働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から昔ながらの生活歴を聞き、その人らしさを把握している。また、日々の生活状況からその人の思いを感じ、生きてきた過程を大切に、強制すること無く過ごしていただくよう努めている。困難な方には表情等で読み取っている。	職員は、利用者の傍らを通る時は必ず声がけをするように努め、コミュニケーションを図りながら、意向等の把握に取り組んでいる。また、意向等の把握が難しい利用者についても、好きな事を見つけてコミュニケーションにつなげ、全職員が利用者の視点に立って、意向等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族やケアマネージャー等からの情報や、本人との会話の中から思いを読み取り、サービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や介護記録等を利用して状況の把握に努めており、ユニット会議等で状況を共有し、個別の対応ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況の変化や更新の時期に評価し、カンファレンスを開催して課題やケアのあり方を検討しており、結果を介護計画に反映させ、見直しについてチームで話し合いを行っている。また、面会時等に家族からの情報も得ている。	利用者の意見を第一に、家族から意見や要望を聴取し、職員の気づき等を基に十分に話し合いの上、利用者本位の個別具体的な介護計画を作成している。また、担当職員は利用者毎に定期評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子について、介護日誌や経過記録、カードックス等への個別の記録を活用し、状態の把握、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内だけでなく、入院時や通院時でも、必要に応じて家族の送迎を行ったり、利用者様の体調が悪い時は、いつでも宿泊できる体制を取っている。また、帰宅や墓参り等の要望があれば、いつでも対応できる体制である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校のボランティアや地区の民生委員による読み聞かせを毎月行っている。施設内行事では、ボランティア団体への働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診にて適切な医療が受けられる。	入居時に本人や家族から聞き取りを行い、入居後の受診、医療機関について意思を確認し、希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、協力医療機関による月1回の往診がある他、必要に応じて、隣の市町の総合病院への受診も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、正看護師が体調管理に来ており、かかりつけ医との連携体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携を利用し、入院している間でも患者の状態を把握するために、頻回に面会に行ったり、看護師や家族に情報提供を求め、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、看護師が不在のため、施設自体に限界があり、入所時に家族へ説明して理解していただいている。	利用者が重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に文書で説明し、ホームの方針を明確にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は2年に1回、救急救命講習を受講し、緊急時の対応ができるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアルを作成し、職員に周知している。火災時の避難訓練は年2回、また、町との防災訓練や原発事故時の避難研修会等にも参加している。	日中だけでなく、夜間も想定した具体的な避難誘導策を作成し、年2回、消防署の指導の下、隣接する施設と合同で、時間を測定しながら避難訓練を行っている。また、地域特有の原発事故発生時の訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前・名字等に「さん」を付けて呼ぶようにし、また、自尊心に配慮して傷つけないよう、言葉のかけ方は徹底しているが、中には馴染みのある呼び方で呼び、できていない職員もいる。	利用者の尊厳に配慮して、その時々状況に合わせて、小声で話したり、場所を変えて話す等の対応をしている。ホーム内に「サービス向上委員会」や「接遇委員会」を設置し、ホーム全体で利用者への声かけや対応について考え、改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる事とできない事を選択していただき、できる事を無理なくいつまでもやっていただける環境を整えている。日常生活の中で職員が寄り添い、思いを聞き入れ、意見や要望を叶えられるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間だから何かをするのではなく、個々の生活リズムやペースを把握し、その人のリズムに沿った支援ができるよう、まずは自己決定を大切にしよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着を選択していただき、好みの物を着れるよう支援している他、入浴後には爪切りを行っている。2ヶ月に1回、馴染みの床屋が整髪に訪れている他、気分転換に美容室へ行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理の下準備は、お手伝いができる利用者様と行っている。地元の食材を大切にして、食べ慣れた食材を提供している。	委託先の栄養士が献立を作成し、職員が調理を行い、刻み食やとろみ食等にも対応している。また、通院の帰り等を利用して、地元のスーパーや道の駅で食材を購入している他、利用者の好みや苦手なものにも配慮し、誕生会や行事等に合わせて、利用者が食事を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カードックスを活用して摂取量の把握に努め、食事形態は普通食から刻み食、ミキサー食まで用意し、個別に対応、提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、またはガーゼにて口腔内を清潔にしている。歯磨きコップは毎晩消毒している他、必要に応じて、歯科からの指導を受けられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の活用と個別の排泄リズムの把握に努め、対応している。本人の訴えを大切に、立位可能な方はトイレ誘導を行っている。	記録・把握している排泄パターンにより、事前誘導を行う等、自立に向けた支援を行っており、立位可能な利用者には声がけをしている。夜間はオムツ使用だが、日中はリハビリパンツにした例もあり、オムツの使用継続等について検討する体制となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、個々の排便状況を確認している。自然排便を促せるよう、果物やヨーグルト、乳酸菌のあるものを摂取し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴できるようにしている。基本的に、午前中に入浴を行っているが、希望に応じて、午後にも入浴できるようにしている。	職員は、入浴に対する利用者の羞恥心や負担感を理解の上、基本的に週2回の入浴支援に取り組んでいる。また、意思決定が難しい利用者についても、好みの温度で入浴できるよう、支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中は活動的に体を動かし、歌や踊りを楽しみめるよう、ソファやテレビを準備して、ゆったりと寛げる空間を提供している。夜間も睡眠の妨げにならない程度に、自由にテレビを楽しんでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を一覧にして、わかりやすくしている。服薬時は、職員間で名前の確認を行い、誤薬が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じたお手伝いをお願いしたり、音楽体操やカラオケ等、趣味を活かした支援を行っている。パン屋さんが来た時は自由に購入できるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日には散歩に出かけたり、季節が感じられるよう、果物狩りに出かけている。	天気の良い日はホーム周辺を散歩している他、利用者の希望を聞きながら、ドライブ等に出かけており、サクランボ狩りには毎年出かけている。また、受診の機会等も利用しながら、買い物の支援等も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はスーパーに買い物へ出かけ、好きな物を購入できるようにしているが、基本的には、家族または施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届いた際は読んで聞かせ、希望があれば電話で話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節が感じられる装飾をしたり、自室には家族や行事の写真を掲示している。居室内の窓は二重サッシで、障子模様になっているので、落ち着いた感じになっている。	ホール南側の大きな窓はベランダにつながり、白いベンチが置かれ、日向ぼっこができる他、春には町が誇る菜の花畑を見ることが出来る。また、ホタテ貝を利用した季節毎の装飾や行事の写真も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはテレビやソファを設置しており、自由に過ごしてもらえよう、環境を整えている。また、天気の良い日は、外庭に長椅子を準備しており、自由に談笑したり、季節を感じられるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の使いやすい配置にしたり、入所の際に使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心して生活していただくようになっている。室内の配置等も、本人の希望を聞き、過ごしやすいようにしている。	居室にはベッドやクローゼットが備え付けられている他、できる限り馴染みの物を持って来ていただくように働きかけしており、布団やテレビ、家族の写真、人形、置物等、多様な物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状態に合わせて、トイレの近くや畳みの部屋等、居室の居場所を決めている。一人でも移動しやすいように、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置している。		